

01

知識

お金と賢くつきあっていくために ～借金の作法(その7)～

これまで複数回に渡り、「借金の作法」としての二番目にあたる重要ポイント、「実際に必要な金額だけを借りる」ことの大切さを書いてきた。ややしつこいぐらいに繰り返し説明してきた理由でもあるので今回は『金利』について記したい。

まず金利とは「借りた(貸した)お金に対する使用(貸借)料』のことを指し、その料金は一般的に借りた(貸した)金額に年利を乗じたものを日割り計算して求められる。たとえば100万円の金利を年15%で計算すると1か月の金利は1万2500円ほどだが、年12%で計算した場合、その金利は約1万円となる。よって年利は低ければ低いほど金利負担も少なくなり、消費者金融各社もより低い年利を売り文句に融資勧誘を行っている。現在では利用者もより低い年利を求めて借入先を探しているが、目先の数字にばかり気を取られるあまり、より大切なことを見落とし

てしまっていないだろうか。それは「そもそもなぜ借金を必要としていたのか」という、借金の動機だ。

上記の例で100万円・年利12%のケースで考察すると、これを毎月1万5000円ずつ返済していく場合、返済期間は9年以上、返済総額は165万円超となり、金利負担は65万円になる。しかしここで借金の動機を振り返ってみて、実際に必要な金額が80万円であったとする。毎月の返済額は同じで、仮に年利が15%である場合、年利が3%上昇したにも関わらず、返済期間は約7年、返済総額も約132万円と、金利負担は52万円ほどで済む。借金をする際に金利の高低を比較することはもちろん大切な作業ではあるが、それよりも先にすべきことはまず借金の動機を振り返ることだ。そうすることで今の自分にとって本当に必要な借金の額を知ることができ、不必要な借金を負ってしまわずに済むだろう。金利について考えるのはその後からで

よい。借金をする際には目先の金利にばかり気を取られず、まずは借金の動機をはっきり認識するようにしよう。

日本ファイナンス有限会社
下関店 店長

松原 剛

AFP(日本FP協会認定)

TEL083-234-3544

<http://nihon-finance.com>

借金で苦しむ人への的確なアドバイスで定評がある、消費者金融のプロフェッショナル。弁護士の人脈、債務カウンセリング、真摯に相談に乗る姿勢が認められ、感謝の声が多数寄せられている。ラジオなどのメディア出演を通して、借財に対する正しい認識を広めている。

